

## ランチョンセミナー 11【LS11】

# 半月板の新たな バイオメカニクス機能の考察 ～Inside out 法の Revitalization～



2022年 **6月17日** (金) **12:00-13:00**



第3会場 (札幌コンベンションセンター 1階 **中ホール AB**)

\*現地開催の他、オンデマンド配信を行うハイブリット形式となります。  
配信期間は約1か月間とし、単位が取得できるセッションは配信期間中も単位取得ができる形です。



## 【座長】

弘前大学大学院医学研究科 整形外科学講座 教授

**石橋 恭之** 先生



## 【演者】

大阪大学大学院医学系研究科健康スポーツ科学講座 教授

**中田 研** 先生



## 【参加申込】

\*本セミナーは当日の受付となります。当日お申込みお願いいたします。

## 【単位申請】

\*日本整形外科学会 教育研究会のいずれか1単位が取得できます。(受講料1講演1,000円)  
・専門医資格継続単位 必須分野(N): [1] 整形外科基礎科学、[12] 膝・足関節・足疾患 その他単位



## 抄録

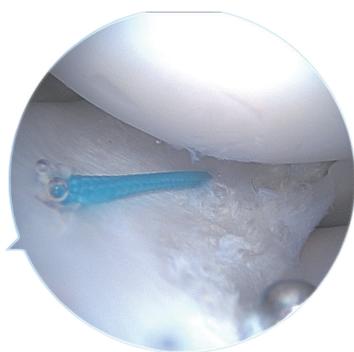
# 半月板の新たなバイオメカニクス機能の考察 ～Inside out 法の Revitalization～

大阪大学大学院医学系研究科健康スポーツ科学講座 教授

中田 研 先生

ヒト下肢の荷重関節の中で、膝関節は可動域が大きく骨性支持が少ないため、靭帯や半月板など軟部組織が支持・安定性に大きな役割を持つ。半月板の荷重分散、衝撃吸収などの生体力学的機能は、円周状に走行する膠原線維と半月板実質からなる解剖学的特徴で担われ、大腿―脛骨間の荷重を圧縮抗力とフープストレスに変換されるとともに、半月板実質の応力は、曲げモーメントも生じ変形変異が起こりうる。

半月板損傷の外科治療の修復術は、技術的に進歩し、Inside-out 法、outside-in 法、All-inside 法が拡大し、Inside-out 法は半月板損傷の部位や損傷形態に広く適応が可能であり、バイオメカニクス研究、半月板修復術の解剖学的特徴の知見の進歩により、半月板の応力、曲げモーメントの観点などから、再注目すべき特徴もみられる。



医療機器承認 / 届出番号	販売名
30300BZX00314000	M ブレード
13B1X00274000030	持針器